

9

やまだ かずまさ
山田 和正(北海道美唄市)

品種	作付面積	単収	地域の単収との差(地域の平均単収)
きたげんき	3.2ha	746kg/10a	256kg/10a(490kg/10a) [*]

*作況補正後の地域の平均単収

【経営概況】

- 家族3人(本人、両親)で経営する専業農家。
- 米を中心とした複合経営。

【作付品目】

- | | |
|----------------------------|--------|
| ○主食用米:ななつぼし、おぼろづき
ゆめびりか | 12.5ha |
| ○飼料用米:きたげんき | 3.2ha |
| ○大豆:ユキホマレ | 1.3ha |
| ○地力増進作物:キカラシ | 5.5ha |



【取組のきっかけ】

- 米を中心とした複合経営であり、他の作物の新規導入は作業機械等の初期投資が必要になるため、水稻による転作として飼料用米を選択。

北海道

美唄市



【取組概要】

- 基盤整備事業からの復元田1年目で地力が高く、窒素供給が多いため、標準施肥量N11.5kg/10aより減肥となる基肥N3kg/10a、側条施肥N5.7kg/10a(化成肥料)を施用、生産コストを削減できた上で単収向上を実現。
- 除草は、植代後除草と初中期一発剤を使用し、体系処理をしないことで除草回数を減らし、省力化しつつ、適正な雑草管理を実現。
- 病害虫防除は、農薬散布用ドローンを用い、通常4回のところ、葉いもちを抑える本田防除1回及び出穂後に1回のみと省力化をはかっている。
- トラクター、コンバイン、乾燥機は沼の内営農組合で共同運用し作業効率の向上及びコストの低減。
- 地域の取組として、稻わらの全量を粗飼料として畜産農家に供給し、耕畜連携に取り組んでいる。

10

いてしま ひろあき
出島 博昭(秋田県大館市)

品種	作付面積	単収	地域の単収との差(地域の平均単収)
秋田63号	1.8ha	787kg/10a	256kg/10a(531kg/10a) [*]

*作況補正後の地域の平均単収

【経営概況】

- 夫婦中心による家族経営
- 機械の共同購入や、適切な追肥等によりコスト削減を実現

【作付品目】

- | | |
|------------------------------|-------|
| ○主食用米:あきたこまち、めんこいな、
きぬのはだ | 4.2ha |
| ○飼料用米:秋田63号 | 1.8ha |
| ○アスパラガス | 0.3ha |
| ○その他 | 0.1ha |



秋田県

大館市



【取組のきっかけ】

- 飼料用米の交付金によって経営の安定化が図られることを期待して、飼料用米生産に取り組む。品種は地元JAからの勧めもあり、「秋田63号」を選定。

【取組概要】

- 耐倒伏性に優れ、いもち病にも強く、地域での栽培に適するという特性を踏まえ、「秋田63号」を選定。
- 地元JAが運営する展示ほ場から得た情報をもとに追肥のタイミングと量を調整しており、少ない追肥で多収を実現した。
(施肥量:主食用米より2割減、施肥時期:幼穂形成期に窒素1kg/10a)
- コンバインを地域の農業者4人で購入し、機械コストの低減、省力化生産に取り組む。
- 主食用米はJA施設、飼料用米は自己保有施設で乾燥・調製し、コンタミの防止に努めている。
- 作業競合が生じないよう、主食用米(早生品種)と飼料用米(晩生品種)で作業分散。その際、晩生品種である飼料用米を先に播種・育苗・定植することによって、多収に必要な生育期間を十分確保。
- 30年産は、6月から日照不足が続き、地域のほ場における稻の生育が著しく悪い中、多収を実現。
- 地元JAからの依頼により自身のほ場を「秋田63号」展示ほ場として協力し、地域の飼料用米栽培の普及に貢献。